

平成27年度

年間授業計画

第二学年



東京都立大島高等学校

〒100-0101

東京都大島町元町字八重の水127

TEL:04992 (2) 1431

FAX:04992 (2) 2461

平成27年度 年間授業計画

教科	科目		履修形態
国語	現代文B		学校必修
対象	単位数	学年	教科担任
普通科	2	2	鈴木 真裕美
使用教科書			
高等学校現代文B (第一学習社)			
使用副教材			
現代文B学習課題集 (第一学習社), 常用漢字ダブルクリア (尚文出版) 最新国語便覧 (浜島書店)			
学習目標			
近代以降のさまざまな文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。			
評価の観点とその趣旨			
関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	
読む能力	知識・理解		
文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んで、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。		
評価方法			
各教材について、文章を的確に理解できたか、文章を味わえたか、などを授業時における姿勢や発言、ノートの取り方、定期考査等により評価する。また、小テストや適宜課す課題の提出状況やその内容も加味する。			
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)	
第I章 評論(一) ・手の変幻 小説(一) ・山月記 評論(二) ・日本語史の「当たり前」 詩 ・わたしが一番きれいだったとき ・ちがう人間ですよ ・永訣の朝	第I章 評論(三) ・自己とは一つの物語である 小説(二) ・こころ 評論(四) ・メディアの豊かさ 言語活動 ・創作の楽しみ・短歌と俳句	第I章 評論(五) ・トランス・サイエンスの時代 評論(六) ・「グローバル化」の中の異文化理解	

平成27年度 年間授業計画

教科	科目		履修形態
国語	古典A		学校必修
対象	単位数	学年	教科担任
普通科	2	2	鈴木, 小堀, 山口
使用教科書			
高等学校標準古典A物語選 (第一学習社)			
使用副教材			
標準古典A学習課題集 (第一学習社), 新精選古典文法 (東京書籍) 古典文法ベーシックノート (文英堂), 最新国語便覧 (浜島書店)			
学習目標			
古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。			
評価の観点とその趣旨			
関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	
読む能力	知識・理解		
文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。		
評価方法			
各教材について、文章を的確に理解できたか、文法事項を理解できたか、文章を味わえたか、などを授業時における姿勢や発言、ノートの取り方、定期考査等により評価する。また、小テストや適宜課す課題の提出状況やその内容も加味する。			
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)	
【古文編】 説話 ・十訓抄 ・古今著聞集 物語(一) ・竹取物語 【漢文編】 ・故事・寓話	【古文編】 物語(一) ・伊勢物語 ・大和物語 ・宇津保物語 【漢文編】 ・三国志の世界	【古文編】 随筆 ・徒然草 ・方丈記 ・枕草子 【漢文編】 ・漢詩の鑑賞	

平成27年度 年間授業計画

教科		科目		履修形態
地理歴史		世界史A		必修
対象		単位数	学年	教科担任
普通科・併合科		2	2	島田 哲男
使用教科書				
明解 世界史 (帝国書院)				
使用副教材				
タペストリー (帝国書院)				
学習目標				
近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
評価の観点とその趣旨				
関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄をしり的な条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	
評価方法				
①定期考査 ②授業中の発言・作業・思考など ③課題(ノート提出など) 以上の3点で総合的に評価を行う。				
1学期の内容 (26時間)		2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)
①「現代世界の特徴と課題」 グローバル化の影響と21世紀の課題 ②「古代～現代」大まかな流れの理解 ③「資本主義の確立」 1、イギリスの産業革命 2、激化する経済覇権競争 ① 世界の現状を知り、その原因を理解するためには世界の歴史を紐解いていく必要があることに気づかせる。 ②「古代」～「現代」の大きな流れを重要な出来事などを通して理解させる。 ③英の産業革命の「正」と「負」両側面や世界の覇権争いについて理解させる。		①「諸地域世界の変容」 1、アメリカとフランスの革命 2、19世紀の世界の様子 3、20世紀の世界の様子 ②「地球世界の成立」 4、第一次大戦と第二次大戦 5、米ソ冷戦と第三世界 6、国際対立と国際協調 ① 二つの革命がもたらした世界への影響について地域ごとに理解させる。 ② 国家同士の戦争の勝敗や、資本主義対社会主義の対立により現代世界が形成されていく過程について理解させる。		「これからの世界と日本」 環境・人権・貧困など、現代社会の様々な問題の原因や社会的背景について再度学習し、私たちの今後のあり方を考えさせる。

平成27年度 年間授業計画

教科		科目		履修形態
地理歴史		日本史B		選択必修
対象		単位数	学年	教科担任
普通科		2	2	島田哲 , 赤澤
使用教科書				
新選 日本史B (東京書籍)				
使用副教材				
新詳日本史 (浜島書店)				
学習目標				
我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養うと共に郷土理解を深める。				
評価の観点とその趣旨				
関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとし、郷土について深い関心がある。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。	
評価方法				
定期考査素点、レポート(提出状況・内容)、発表(態度・内容)を材料とし、総合的に評価する。				
1学期の内容 (26時間)		2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)
第1章 古代国家の形成と貴族文化の誕生 1. 原始社会の生活と文化 2. 農耕社会の形成と大陸文化の摂取 3. 律令国家の形成と古代文化の展開 4. 摂関政治と文化の和様化		第2章 武家社会の形成と生活文化のめばえ 歴史の解釈 1. 中世社会の成立 2. 武家社会の形成と東アジア 第3章 近世社会の形成と庶民文化の展開 1. ヨーロッパ文化との接触と国内統一 2. 幕藩体制の成立		第3章 近世社会の形成と庶民文化の展開 3. 近世社会の発達と町人文化 4. 幕藩体制の動揺と庶民文化の発達

平成27年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態
地理歴史		地理A		選択必修
対 象		単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科・併合科		2	2	田本 滋己
使用教科書				
新編 地理A ひろがる世界とつながる地域 (二宮書店)				
使用副教材				
現代地図帳 (二宮書店), 最新地理図表 GEO (第一学習社)				
学 習 目 標				
現代世界の地理的な諸課題について地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。				
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
現代世界の地理的な諸事象・諸課題について、興味・関心を持って意欲的に学習し、理解しようとしたか。作業学習・調べ学習に意欲的に取り組むことができたか。	現代世界の地理的諸事象について、地域性や歴史的背景を踏まえ、地理の見方考え方から考察することができたか。世界の様々な問題を地球的、地理的視野から考察し、公正に判断しようとしたか。	地図の読図や作図、衛星画像や空中写真、警官写真の読みとりなど、地理的技能を身につけることができたか。資料や地理情報の活用方法を身につけることができたか。	現代世界の地理的事象についての基本的な知識を身につけ、相互の関連性や課題を理解することができたか。	
評 価 方 法				
①小テスト ②レポート作成 ③提出物 ④考査 以上4点を総合的に評価する。				
1学期の内容 (26時間)		2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)
第Ⅰ編 現代世界の特色 第1章 地球儀や地図からとらえる現代世界 4. 地球儀と地図 第2章 世界の生活・文化の多様性 1. 人々を取りまく地形 第Ⅱ編 生活圏の課題 第1章 地図は生活必需品 1. 身のまわりの地図 2. 地形図の読み方		第Ⅱ編 生活圏の課題 第2章 自然環境と防災 1. 日本の自然環境の特色 2. 自然災害の事例 3. 日本の自然災害への取り組み 第3章 生活圏の諸課題と地域調査 1. 生活圏の諸課題 2. 地域調査 第Ⅰ編 現代世界の特色 第2章 世界の生活・文化の多様性 1. 人々を取りまく気候		第Ⅰ編 現代世界の特色 第2章 世界の生活・文化の多様性 3. 人々を取りまく経済と文化

平成27年度 年間授業計画

教科		科目		履修形態
公民		政治・経済		選択必修
対象		単位数	学年	教科担任
普通科		2	2	島田哲 , 赤澤
使用教科書				
政治・経済 (数研出版)				
使用副教材				
最新政治・経済資料集新版 (第一学習社)				
学習目標				
<p>広い視野に立ち、民主主義の本質や現代の政治・経済・国際関係について理解させるとともに、その諸課題を客観的に考えさせ、公正な判断力を養う。 また、地域の開発と課題について考えさせ、市民としての資質や能力を育成する。</p>				
評価の観点とその趣旨				
関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考えようとする。	現代の政治、経済、国際関係にかかわる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断する。	現代の政治、経済、国際関係にかかわる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向をとらえる基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。	
評価方法				
定期考査素点、レポート(提出状況・内容)、発表(態度・内容)を材料とし、総合的に評価する。				
1学期の内容 (26時間)		2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)
国際社会の特質 国際社会の諸課題 現代日本の政治 第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原則と日本国憲法 第1節 民主政治の基本原則 第2節 日本国憲法と基本的人権 第3節 政治参加と民主政治 第2章 現代の国際政治 第1節 国際政治の動向 第2節 国際社会の課題と日本の役割		現代日本の財政状況 現代経済のしくみ 市場経済のしくみ 財政のしくみと租税 第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質 第1節 経済活動の意義と経済体制 第2節 現代経済のしくみ 第3節 日本経済と福祉の向上 第2章 国民経済と国際経済 第1節 国際経済の動向 第2節 国際経済の課題と国際協力		地域の諸課題の考察 地域の諸課題の解決に向けて

平成27年度 年間授業計画

教科		科目		履修形態
数学		数学Ⅱ		学校必修
対象	単位数	学年	教科担任	
普通科	4	2	藤原, 中山, 廣谷	
使用教科書				
新編数学Ⅱ (数研出版)				
使用副教材				
新課程 教科書傍用 基本と演習テーマ 数学Ⅱ+B[ベクトル, 数列] (数研出版)				
学習目標				
考え方を理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。 事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育む。				
評価の観点とその趣旨				
①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解	
数学のよさを認識でき、数学的活動を通して、生徒が主体的に学習する態度、意欲が見られる。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。	
評価方法				
観察, 対話, ノート, ワークシート, テスト, レポート, 目標設定, 自己評価などの方法を用いて、多様な観点から、課題ごとに評価規準を策定し、総合的に評価する。				
1学期の内容 (52時間)		2学期の内容 (52時間)		3学期の内容 (36時間)
3次式の展開と因数分解 二項定理 整式の割り算 分数式とその計算 恒等式・等式の証明 不等式の証明 複素数とその計算 2次方程式の解 解と係数の関係 剰余の定理と因数定理 高次方程式 直線上の点・平面上の点 直線の方程式 2直線の関係 円の方程式 円と直線・2つの円 軌跡と方程式 不等式の表す領域		(正弦定理と余弦定理) 角の拡張・三角関数 三角関数のグラフ 三角関数の性質 三角関数を含む方程式・不等式 三角関数の加法定理 (加法定理の応用) 指数の拡張 指数関数 対数とその性質 対数関数 常用対数		微分係数 導関数とその計算 接線の方程式 関数の増減と極大・極小 関数の増減・グラフの応用 不定積分 定積分 定積分と図形の面積

平成27年度 年間授業計画

教科		科目		履修形態
数学		数学A		学校必修
対象	単位数	学年	教科担任	
併合科	2	2	大石 隆一	
使用教科書				
新編数学A (数研出版)				
使用副教材				
新課程 教科書傍用 基本と演習テーマ数学 I + A (数研出版)				
学習目標				
生徒個々の学力に応じた授業を行い、少しでも数学の楽しさを感じてもらい、数学に対する意欲を持たせる。				
評価の観点とその趣旨				
①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解	
数学のよさを認識でき、数学的な思考活動を通して、生徒が自主的・主体的に学習する態度、意欲が見られる。	身近にある不確定な事象・事例を数量的にとらえ、数学的に考察したうえで数式により表現または判断ができ、それらを活用することができる。	基礎・基本的な知識の習得と技能(計算力)を持ち、問題を解決できる。また、課題に対し、これまで学習した知識をもとに、一般的な解法などを見つけ、迅速かつ適切に処理することができる。	場合の数やそれらの確率、整数のいろいろな性質または身近な図形の性質や特徴などを理解し、基礎・基本的な問題を解くことができる。	
評価方法				
観察, 対話, ノート, ワークシート, テスト, レポート, 目標設定, 自己評価などの方法を用いて、多様な観点から、課題ごとに評価規準を策定し、総合的に評価する。				
1学期の内容 (26時間)		2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)
【場合の数】 1. 集合の要素の個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 組合せ 【確率】 5. 事象と確率 6. 確率の基本性質 7. 独立な試行と確率 8. 条件付き確率		【平面図形】 1. 三角形の辺の比 2. 三角形の内心・外心・重心 3. チェバ・メネラウスの定理 4. 円に内接する四角形 5. 円と直線 6. 二つの円 7. 作図 【空間図形】 8. 直線と平面 9. 空間図形と多面体		【約数と倍数】 1. 約数と倍数 2. GCMとLCM 3. 整数の割り算と商・余り 【ユークリッドの互除法】 4. ユークリッドの互除法 5. 1次不定方程式 【整数の性質の活用】 6. 分数と小数 7. n進法

教科	科目		履修形態
数学	数学B		選択必修
対象	単位数	学年	教科担任
普通科	2	2	廣谷 吉昭
使用教科書			
新編数学B (数研出版)			
使用副教材			
新課程 教科書傍用 基本と演習テーマ 数学Ⅱ+B (数研出版)			
学習目標			
数列・ベクトルについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。 事象を数学的に考察し、表現する能力を伸ばし、それらと活用する態度を身に付ける。			
評価の観点とその趣旨			
①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
ベクトル、数列に関心をもつとともに、数学的帰納法などをおしてそれらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、ベクトル、数列または数学的帰納法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	ベクトル、数列において事象を数学的に表現する仕方や、数学的帰納法における証明問題なども含めて、処理する方法の技能を身に付けている。	ベクトル、数列または数学的帰納法における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法			
観察、対話、ノート、ワークシート、テスト、レポート、目標設定、自己評価などの方法を用いて、多様な観点から、課題ごとに評価規準を策定し、総合的に評価する。			
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)	
【ベクトルとその演算】 ①ベクトル ②ベクトルの演算 ③ベクトルの成分 ④ベクトルの内積 【ベクトルと平面図形】 ①位置ベクトル ②ベクトルの図形への応用 ③図形のベクトルによる表示	【空間のベクトル】 ①空間の点 ②空間のベクトル ③ベクトルの成分 ④ベクトルの内積 ⑤ベクトルの図形への応用 ⑥座標空間における図形 【等差数列と等比数列】 ①数列と一般項 ②等差数列 ③等差数列の和 ④等比数列 ⑤等比数列の和	【いろいろな数列】 ①和の記号 Σ ②階差数列 ③いろいろな数列の和 【数学的帰納法】 ①漸化式 ②数学的帰納法	

平成27年度 年間授業計画

教科	科目		履修形態
理科	物理基礎		選択必修
対象	単位数	学年	教科担任
普通科	2	2	渡邊 邦博
使用教科書			
新編物理基礎（東京書籍）			
使用副教材			
改訂版 リードLightノート 物理基礎（数研出版）			
学習目標			
日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
評価の観点とその趣旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中にも問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物体の運動と様々なエネルギーに関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法			
定期考査, 小テスト, 提出物(レポートを含む), 出席状況、授業(実験)に臨む姿勢などにより, 総合的に評価する。			
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)	
<ul style="list-style-type: none"> ・速度 ・等速直線運動 ・加速度 ・等加速度直線運動 ・力と力のつり合い ・運動の法則 ・質量と重力 ・摩擦力 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事とエネルギー ・位置エネルギー ・運動エネルギー ・力学的エネルギー保存の法則 ・熱と温度 ・熱と仕事 ・電流と電気抵抗 ・電力と電力量 ・電流がつくる磁界 ・直流と交流 ・電磁波 	<ul style="list-style-type: none"> ・波の伝わり方 ・波の表し方、重ね合わせ ・波の反射 ・定常波 ・音の伝わり方 ・振動する弦 ・振動する気柱 	

平成27年度 年間授業計画

教科	科目		履修形態
理科	生物基礎		必修
対象	単位数	学年	教科担任
普通科・併合科	2	2	柴原 桂
使用教科書			
新生物基礎（第一学習社）			
使用副教材			
ネオパルノート生物基礎（第一学習社） スクエア最新図説生物neo（第一学習社）			
学習目標			
生物学の基礎学習を通して自然科学に親しみを持ち、生命活動の仕組みを理解し、生命を尊重する態度を育てる。			
評価の観点とその趣旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
自身の体や他の生物の生命活動のしくみ、生物どうしの関係、環境と生物の関係に関心を持ち意欲的に授業（実験）に取り組み、充実した課題やレポートを作成する。	授業で得た様々な知識どうしを関連させ、生命現象を総合的に理解できる。実験や観察を通して独自の疑問や考察、仮説を提示することができる。	顕微鏡など実験器具の基礎的な使用法を習得し、実験観察に主体的に取り組むことができる。観察や実験で得たデータを文書や言葉にして論理的に他者に伝えることができる。	基礎的な生物学の語句の意味と範囲を正確に理解し使用することができる。語句は単独で理解するのではなく、周囲の事象と関連させて理解することができる。
評価方法			
定期考査、小テスト、提出物、授業に望む態度等を総合的に評価する。			
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)	
生物の共通性の由来 細胞構造の共通性と多様性 真核細胞の構造 代謝とエネルギー 光合成 呼吸 ミトコンドリアと葉緑体の起源 遺伝子・染色体・DNA DNAの構造 DNAの複製と分配 遺伝子の発現 生体内のタンパク質 細胞と遺伝子の働き	体液とその働き 体液の循環 体液の濃度調整 肝臓の働き 体内環境の調節のしくみ 自律神経系のはたらき ホルモンによる体内環境の維持 血糖量の調節 体温の調節 生体防御 体液性免疫 細胞性免疫 植物と環境 様々な植生 植物の遷移	気温・降水量とバイオーム 世界のバイオーム 日本のバイオーム 生態系 生態系の物質循環とエネルギーの流れ 物質循環 生態系のバランス 人間活動と生態系 生態系の保全	

平成27年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態
保健体育		体 育		必履修
対 象		単 位 数	学 年	教 科 担 任
普通科・併合科		3	2	天野, 下村, 山本
使用教科書				
(なし)				
使用副教材				
マイ・スポーツ 総合版 (大修館書店)				
学習目標				
運動技能を高め互いに協力して計画的に運動や競技・ゲームが出来るようにする。水泳・持久走は重点種目とする。				
評価の観点とその趣旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
各運動や競技に強い関心と意欲を持って取り組もうとしている。 授業を積極的に取り組み、競技力を向上させようとしている。	各運動や競技の特性を考慮し、練習方法を考えて取り組もうとしている。 各運動や競技の安全面を留意し、取り組もうとしている。 自分の考えを身体を使って、表現し、発表しようとしている。	各運動や競技に必要な体力や技術力を身につけようとしている。	各運動や競技の特性やルール、マナーを理解しようとしている。 各運動や競技の安全を高めるために、必要な知識を身につけようとしている。 自分の考えを身体を使って、表現し、発表する方法を身につけようとしている。	
評価方法				
実技・出席・意欲・興味・関心・態度・服装等を科の基準に基づき評価する。 重点種目の出席率・実技点・取り組みを重視する。				
1学期の内容 (39時間)	2学期の内容 (39時間)	3学期の内容 (27時間)		
オリエンテーション スポーツテスト 集団行動 体づくり運動 球技 水泳	体づくり運動 球技	体づくり運動 陸上競技		

平成27年度 年間授業計画

教 科		科 目		履 修 形 態	
保健体育		保健		必履修	
対 象		単位数	学 年	教科担任	
普通科・併合科		1	2	天野 , 山本	
使用教科書					
現代高等保健体育 改訂版 (大修館書店)					
使用副教材					
なし					
学習目標					
個人及び集団の生活における健康・安全について理解を深めさせ、個人及び集団の健康を高める能力と態度を育てる。					
評価の観点とその趣旨					
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能	
知識・理解					
環境と健康、生涯を通じる健康、集団の健康について、関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。		環境と健康、生涯を通じる健康、集団の健康について理解し、判断することができる。		環境と健康、生涯を通じる健康、集団の健康について適切な判断と対応ができる。	
環境と健康、生涯を通じる健康、集団の健康について理解し、知識を身につけようとしている。					
評価方法					
出欠、意欲、興味、関心、取り組み、提出物、考査、ノートなどを総合的に判断し、評価する。					
1学期の内容 (13時間)		2学期の内容 (13時間)		3学期の内容 (9時間)	
環境の汚染と健康 環境の調和と健康		家庭生活と健康 職業と健康		疾病の予防活動 環境衛生活動と食品衛生活動 保健・医療制度	

平成27年度 年間授業計画

教科		科目		履修形態
芸術		音楽Ⅱ		学校必修
対象		単位数	学年	教科担任
普通科・併合科		2	2	鈴木 紘彦
使用教科書				
高校生の音楽2（音楽之友社）				
使用副教材				
New Recorder Library（教育出版）				
学習目標				
音楽Ⅰの内容をさらに深め、音楽を感受する感性を高め、表現活動をより創造的に行い、積極的に取り組ませ、音楽を愛好する心情を育むとともに、主体的な表現や鑑賞の能力を伸ばす。				
評価の観点とその趣旨				
関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力	
音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫しながら、どのように歌うか、演奏するか、音楽を作るかについて表現意図を持っている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身につけ、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。	
評価方法				
実技テストを中心に、観察・発言・取り組み・出席状況・授業態度・提出物・ワークシート・小テスト等、様々な観点を通して総合的に評価する。				
1学期の内容 (26時間)		2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)
<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱 世界の歌曲等 混声二部合唱曲 ・器楽 アルトリコーダー ソロ ・プチ音楽史 古代～ルネサンス ～バロック ・創作 変奏曲入門 ・鑑賞 音楽史に応じて 音楽映画の鑑賞 		<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱 混声三部合唱曲 ・器楽 リコーダーアンサンブル 自由楽器アンサンブル ・プチ音楽史 古典～前期ロマン ・My Favorite Music ・鑑賞 音楽史に応じて 音楽映画の鑑賞 		<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱 歌曲 混声合唱 2年間の総まとめ ・器楽 自由楽器アンサンブル ・プチ音楽史 後期ロマン～国民楽派 ～近現代～現代 ・鑑賞 音楽史に応じて 音楽映画の鑑賞

平成27年度 年間授業計画

科目		履修形態	
外国語	コミュニケーション英語Ⅱ	学校必修	
対象	単位数	学年	
普通科・併合科	3	2	
使用教科書			
Compass English Communication Ⅱ (大修館書店)			
使用副教材			
Learners英文法 (数研出版) 快速英単語 (文英堂)			
学習目標			
英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。			
評価の観点とその趣旨			
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。
評価方法			
定期考査素点、小テスト、課題(提出状況・内容)、発表(態度・内容)を材料とし、総合的に評価する。			
1学期の内容 (39時間)	2学期の内容 (39時間)	3学期の内容 (27時間)	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業オリエンテーション ・Lesson 1～ Lesson 4 ・不定詞 ・動名詞 ・分詞 <p>※上記の内容を習熟度に応じて学習する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Lesson 5～Lesson9 ・比較 ・関係詞 <p>※上記の内容を習熟度に応じて学習する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Lesson 10 ・仮定法 ・1年間の学習のまとめ <p>※上記の内容を習熟度に応じて学習する</p>	

平成27年度 年間授業計画

教科		科目		履修形態
外国語		英語表現 I		選択必修
対象		単位数	学年	教科担任
普通科・併合科		2	2	川口国春, 土肥ミレナ
使用教科書				
My Way English Expression (三省堂)				
使用副教材				
Learners'英文法 (数研出版), 快速英単語 (文英堂)				
学習目標				
自分の言いたいことを、英語で自由に表現できるようにする。				
評価の観点とその趣旨				
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解	
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	
評価方法				
以下の項目を総合的に評価する ・Writing Test ・授業への参加態度 ・課題提出状況				
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)		
<ul style="list-style-type: none"> ・授業オリエンテーション Unit 1(Lesson 1～5) ・動詞を使いこなす ・現在形・現在進行形 ・過去形・過去進行形 ・未来表現 ・現在完了形(完了・結果・継続・経験) ※上記の内容を習熟度に応じて学習する 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の復習 ・Unit 2 (Lesson 6～15) ・助動詞 ・受動態 ・不定詞 ・分詞 ※上記の内容を習熟度に応じて学習する 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の復習 ・Unit 3 (Lesson 16～25) ・比較 ・関係代名詞 ・関係副詞 ・仮定法 ・部分否定 ・1年間の学習のまとめ ※上記の内容を習熟度に応じて学習する 		

平成27年度 年間授業計画

教科		科目		履修形態
家庭		家庭総合		必履修
対象		単位数	学年	教科担任
普通科		2	2	高橋 貢
使用教科書				
家庭総合 豊かな生活をともにつくる (大修館書店)				
使用副教材				
高校生のための生活学改定版 (大修館書店)				
学習目標				
(1)調理実習及び栄養学に関する学習を通して、食と健康について考えさせる。 (2)発達段階に応じた保育の在り方について理解させる。 (3)高齢社会の現状を認識させ、高齢者支援の重要性を考えさせる。				
評価の観点とその趣旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
①食と健康に関心を持ち、日常生活における理想的な食生活について常に考える習慣を身に着ける。 ②子供の発達段階における特性について理解する。 ③家庭保育と集団保育の役割について理解する。 ④高齢者支援に取り組む能力と態度を育てる。	①日常の食生活において、常に栄養のバランスを考え、健康維持に努められる。 ②自分にとって理想的な保育の在り方について表現できる。 ③高齢者を積極的に支援できる。	①初歩的な調理技術をマスターする。 ②発達段階に応じた保育を実現できる。 ③車いす介助等ができる。	①食と健康の関係を理解できる。 ②保育の大切さを理解できた。 ③高齢社会の現状について理解できた。	
評価方法				
①授業態度及び出席状況 ②ノート及び課題等の提出状況 ③定期考査				
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)		
1. 食生活をつくる (1)食生活を見つめる (2)健康な食生活について (3)安全な食生活 (4)食文化を考える (5)調理実習① 「和風料理をつくる」 2. 調理実習「和風料理」 (5月中旬)→「肉じゃが、茶碗蒸し、味噌汁」	1. 人生を見つめる (1)人生を展望する (2)家庭・家族を見つめる (3)家庭生活と社会について 2. 子どもを育てる (1)子どもの成長・発達について (2)子どもの生活について (3)親に求められること (4)子どもの人権と権利 (5)保育実習 (10月中旬)北の山保育園 3. 調理実習②「中華料理」 (11月下旬)→「麻婆豆腐、餃子、卵スープ」	1. 調理実習③「洋風料理」 (1月中旬)→「グラタン、コーンクリームスープ」 2. 高齢期を生きる (1)高齢者の生活 (2)高齢者の福祉 (3)高齢者とともに生きる (4)高齢者擬似体験、介護実習		

平成27年度 年間授業計画

教科		科目		履修形態
農業(専門)		総合実習		学校必修
対象		単位数	学年	教科担任
農林科		3	2	金子, 米山, 山木, 齋藤 小柴, 佐藤, 土屋
使用教科書				
(なし)				
使用副教材				
なし				
学習目標				
草花・野菜・畜産などの栽培実習・飼育実習を通して、農業に関わる基礎・基本的な知識や技能を身につけさせるとともに、農業の良き理解者として調和のとれた人間づくりを目指す。農業に関する基礎的な知識の定着を徹底し、幅広い見識を深める。				
評価の観点とその趣旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
豊かな自然環境のなかで、農業・環境の各分野に対し、大きな興味関心があり、実習を中心とした授業に知的探究心を持って、積極的、主体的に取り組もうとする。	実習を中心とした授業において、農業生産に関する各作業の目的を理解し、常に次の作業を考えながら、自己の判断で効率的な行動を取れる。	農業生産に必要な基礎的な用具、機具を活用できる技能を身に付け、効率的に作業を進められる。	農業生産に関する基礎的な知識が定着し、農業生産や環境創造のより専門性の高い内容への知識欲を高めることができる。	
評価方法				
上記の観点において、それぞれの到達度を、定期考査、実物鑑定試験、実習点(関心意欲、知識理解度、技能到達度、身だしなみ、提出物)、レポート課題などを用いて点数化し、総合的に評価する。				
1学期の内容 (39時間)		2学期の内容 (39時間)		3学期の内容 (27時間)
草花 鉢花・観葉植物の栽培管理 夏花壇づくりと花壇の管理 野菜 野菜の生育の特性と栽培技術 野菜の生育と栽培管理 (果菜・葉菜・根菜)を体験から学ぶ 乗用トラクターの操作方法 畜産 家畜の飼育管理技術の習得 飼料の管理について 鶏卵の出荷作業 森林 樹木の管理 椿園の管理 さくらプロジェクト		草花 鉢花の栽培管理 学校祭での販売実習準備 秋花壇づくりと花壇の管理 刈払い機の操作方法 野菜 葉菜類の育苗、植付け、収穫、販売実習 ナガネギ、ゴボウの収穫、貯蔵 学校祭に向けての準備 畜産 肉用若鶏の飼育管理・解体 家畜の飼育管理実習 ベーコンの製造実習 生産品販売実習 育すう管理実習 森林 樹木の管理 さくらプロジェクト 夏季休業中に夏期実習(1単位)を実施		草花 培養土作り カメリアフラワーコンテスト 鉢花の栽培管理 野菜 培養土づくり ビニールハウスノビニール張り替え ジャガイモの植え付け 春野菜育苗準備 畜産 畜産加工実習 家畜の飼育管理実習 管理実習 森林 樹木のせん定・間伐 椿園の管理 さくらプロジェクト

平成27年度 年間授業計画

教科		科目		履修形態
農業(専門)		農業情報処理		学校必修
対象		単位数	学年	教科担任
農林科		2	2	金子 雄
使用教科書				
農業情報処理 (実教出版)				
使用副教材				
30時間でマスター Office2007 (実教出版)				
学習目標				
<p>社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させ、情報に関する知識と技術を習得させる。</p> <p>また、農業・環境情報を主体的に活用するためワープロソフト・表計算ソフトの高度な操作について習得する。</p>				
評価の観点とその趣旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能		知識・理解
コンピュータや情報通信ネットワークの仕組みや働き、処理手順などに関心を持ち、これらを活用しようとしている。	情報システムや提供されるサービスの役割と影響及び活用の在り方について考え、それらを適切に表現している。	コンピュータや情報通信ネットワーク及び情報システムや提供されるサービスを活用するための技能を身に付け、活用することができる。		コンピュータや情報通信ネットワーク及び情報システムや提供されるサービスを活用するための知識を身に付け、それらを活用する際の配慮事項を理解している。
評価方法				
<p>授業への取り組み方、課題作成能力、定期考査(実技・筆記)などを総合的に判断して評価する。</p> <p>特に、課題レポートなどの提出期限については厳守することを徹底する。</p>				
1学期の内容 (26時間)		2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)
<p>1 ワープロソフトの取り扱い 日本語ワープロ検定問題演習</p> <p>2 ビジネス文書の作成</p> <p>3 画像を活用した文書の作成</p> <p>4 表計算ソフトの取り扱い SUM、AVERAGE、COUNT、IF関数を利用した表の作成</p> <p>5 グラフの作成</p>		<p>1 表計算ソフトの取り扱い SUM、AVERAGE、COUNT、IF関数を利用した表の作成</p> <p>2 表計算ソフトの取り扱い(応用) VLOOKUP、COUNTIFを利用した表の作成</p> <p>3 ホームページの閲覧及びWebを活用した表の作成</p> <p>4 プレゼンテーションソフトを活用した発表資料作成</p>		<p>1 プレゼンテーションソフトを利用した発表資料作成</p> <p>2 学習成果発表</p>

平成27年度 年間授業計画

教科	科目		履修形態
農業(専門)	野菜		選択必修
対象	単位数	学年	教科担任
農林科	2	2	齋藤道生, 佐藤昌子
使用教科書			
野菜 (実教出版)			
使用副教材			
なし			
学習目標			
野菜の生産と農業経営に必要な専門的な知識と実践的な栽培技術を習得させ、野菜の特性・分類・生理や、その生産に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上及び経営の改善を図る能力と態度を育てる。			
評価の観点とその趣旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
野菜の栽培について興味・関心を持ち、野菜の特性、生理、栽培環境及びそれらの管理技術が相互に関係していることについて探究しようとしている。	野菜の栽培に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	野菜の栽培に関する基礎的な技術を身に付け、野菜の生育に関するプロジェクトを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	野菜の栽培に関する基礎的な知識を身に付け、野菜の特性、生理、栽培環境及びそれらの管理技術が相互に関係していることを理解している。
評価方法			
上記の観点において、それぞれの到達度を、定期考査、実習点(関心意欲、知識理解度、技能到達度、身だしなみ、提出物)、レポート課題などを用いて点数化し、総合的に評価する。特に、課題レポートなどの提出期限については厳守することを徹底する。			
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)	
野菜生産の役割と動向 野菜の生産と利用 野菜の需要の動向 果菜類の育苗 野菜の特性と栽培技術 野菜の種類と特徴 野菜の生育と生理 栽培環境と生育の調節 果菜類の栽培実習 野菜の生産 品種の特性と選び方 作型と栽培計画 農地の有効利用 自主栽培品目の栽培学習	作業体系の改善 野菜環境を取りまく環境を学ぶ 農業機械の操作練習 野菜の栽培的、経営的特性 商品化 学校祭販売実習の取り組み 根菜類・葉菜類の栽培管理	野菜生産の評価 施設と農地の高度利用 育苗について 用土について 落ち葉かき・腐葉土づくり	

平成27年度 年間授業計画

教科	科目		履修形態
農業(専門)	草花		選択必修
対象	単位数	学年	教科担任
農林科	2	2	米山 , 小柴
使用教科書			
草花 (実教出版)			
使用副教材			
なし			
学習目標			
草花の生産について必要な知識と技術を習得させるとともに、草花の特性や生産に適した環境を理解させるとともに、草花を通して人間生活を豊かにする能力と態度を育てる。 主として鉢花栽培を通して、商品価値を高めるための栽培技術と装飾技術を習得させる。			
評価の観点とその趣旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
草花やその栽培と利用に対し興味関心があり、実習を多く含む授業に対して積極的に取り組む意欲と態度を持っている。	栽培管理作業について科学的な視点から理論を考えることができ、草花栽培を通して生育状況に応じた適切な判断ができる。	草花栽培に各工程において必要な技術や、商品価値を高めるための技能を身に付けている。	草花栽培とその利用について基礎的な知識が定着し、人間生活を豊かにする草花のはたらきを理解している。
評価方法			
上記の観点において、それぞれの到達度を、定期考査、実習点(関心意欲、知識理解度、技能到達度、身だしなみ、提出物)、レポート課題などを用いて点数化し、総合的に評価する。			
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)	
草花生産の特性 生活と草花の利用 草花の流通と需給の動向 実習 鉢花の鉢上げ 観葉植物の繁殖 ラン類の繁殖	草花の種類と特徴 草花の生育と生理 栽培環境と生育の調節 実習 鉢花の開花管理 栽培した草花の販売実習 生産設備の管理	草花の栽培的、経営的特性 品種の特性と選び方 作型と栽培計画 栽培管理の理論 草花生産の評価 実習 鉢花の播種 フラワーアレンジメント	

平成27年度 年間授業計画

教科		科目		履修形態
農業(専門)		森林科学		選択必修
対象		単位数	学年	教科担任
農林科		2	2	金子 , 土屋
使用教科書				
森林科学 (実教出版)				
使用副教材				
なし				
学習目標				
森林の育成, 保全と木材の生産に必要な知識と技術を習得させ, 森林の役割や生態について理解させるとともに, 森林の保全と利用を図る能力と態度を育てる。				
評価の観点とその趣旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
森林科学に対して興味・関心を持ち, 森林の多面的機能や森林管理の意義や今日的な課題について関心をもち, 森林の育成や木材の生産を体験することができる。	実際の・体験的な実験・実習を通して, 林木の生育特性と森林のもつ多面的な機能, 森林保全などから森林管理が重要であることを理解し, 我が国の森林の育成, 保全, 利用における課題について考えることができる。	森林での実習を通して, 伐採, 集材, 木材の運搬及び林業機械を動かすことができる。森林の保育について, 下刈り, つる切り, 除伐, 枝打ち, 間伐など林木の保育ができる。実生苗や挿し木苗の繁殖ができる。	育苗, 保育や伐採などの実習及び森林や林木などの調査, 観察や実験などの学習活動を通して, 森林生態系における植物・動物・菌類や微生物の相互関係, 水や炭素などの物質循環及び林木の生育特性について理解することができる。	
評価方法				
授業への取り組みの姿勢, 提出物, 定期考査の内容を総合して評価する。特に, 実習における知識理解, 態度, 服装については評価の重点とする。				
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)		
実習 樹木の種類について 樹木の管理実習 ・防風林, 防火林の管理 園芸加工品の製造実習 ・梅干し 樹木のせん定 緑化圃場の管理実習 緑化用樹木の育苗 ・樹木の増殖方法について ・挿し木・接ぎ木 講義 森林の総合的利用について	実習 緑化用樹木の管理実習 ・施肥 牧場の管理 育苗圃場の管理実習 ・除草, せん定 環境調査 ・土壌pHの測定, データ処理 講義 森林の土壌について	実習 緑化用樹木の管理実習 ・せん定, 間伐 間伐材の処理 樹木管理用機械について 講義 森林と環境について 1年間のまとめ		

平成27年度 年間授業計画

教科		科目		履修形態
農業(専門)		畜産		選択必修
対象		単位数	学年	教科担任
農林科		2	2	山木 , 土屋
使用教科書				
畜産 (農文協)				
使用副教材				
なし				
学習目標				
家畜の飼育と畜産経営に必要な知識と技術を習得させ、家畜の特性や飼育環境を理解させるとともに、合理的な家畜管理と品質や生産性の向上を図る能力と態度を育てる。				
評価の観点とその趣旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
畜産について興味・関心を持ち、畜産が人々の健康と生命に直結し、豊かな生活を提供する社会的役割を担っていることを理解し、授業に積極的に取り組んでいる。	畜産物の生産から食料消費までの食料供給の仕組みを理解し、家畜の特性と飼育環境の相互関係から飼育環境について家畜の飼育に関して科学的に考えることができる。	家畜の飼育計画、飼育管理、飼育評価に関する基本的な技術を習得できる。	家畜の体験的、継続的な飼育活動と観察、実験、調査・記録などの学習活動を通して家畜の生理・生態的な特性や畜産物の生産に適した飼育環境及びそれらと生育の相互関係について理解できる。	
評価方法				
授業への取り組みの姿勢、レポート、定期考査の内容を総合して評価する。特に、実習における知識理解、態度、服装については評価の重点とする。				
1学期の内容 (26時間)		2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)
実習 採卵鶏の飼育管理 ・洗卵、パック詰めなど管理 作業実習 ・鶏ふんの処理とその利用 ・生産品販売実習 ・給餌タンクの管理 東京うこっけいの飼育管理 純系しゃもの飼育管理 緬羊の飼育管理 (毛刈り体験実習) 飼料作物の栽培 廃鶏の処理 雌雄鑑別について 講義 家畜の特性と飼育環境		実習 肉用若鶏の飼育管理実習 畜産加工品の製造 ふ化実験 育すう管理 東京うこっけいの飼育管理 純系しゃもの飼育管理 廃鶏の処理 平飼い飼育による養鶏 鶏伝染病について ワクチンの投与 講義 家畜の特性と飼育環境		実習 東京うこっけいの飼育管理 純系しゃもの飼育管理 廃鶏の処理 畜産加工品の製造 ・ベーコン、ハム、ソーセージ ふ化、育すう実験 講義 家畜の特性と飼育環境 一年間のまとめ

平成27年度 年間授業計画

教科	科目		履修形態
農業(専門)	植物バイオテクノロジー		学校必修
対象	単位数	学年	教科担任
農林科	2	2	米山 , 小柴
使用教科書			
植物バイオテクノロジー (実教出版)			
使用副教材			
なし			
学習目標			
植物に関するバイオテクノロジーの知識と技術を習得させ、植物の生物としての特性とバイオテクノロジーの特質を理解させるとともに、農業の各分野で応用する能力と態度を育てる。実験器具の基本的な取り扱い方法、無菌操作の基礎を習得させる。			
評価の観点とその趣旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
植物の特性とバイオテクノロジーに対し興味関心があり、実習を多く含む授業に対して積極的に取り組む意欲と態度を持っている。	無菌操作時の配慮事項について科学的な視点から理論を考えることができる。実験内容をスケッチ等を活用して適切に記録できる。	実験器具をその特性に応じて適切に使用でき、安全性に配慮しながら実験を行える。	バイオテクノロジーについて基礎的な知識が定着し、バイオテクノロジーが人間生活に果たす役割を理解できる。
評価方法			
上記の観点において、それぞれの到達度を、定期考査、実習点(関心意欲、知識理解度、技能到達度、身だしなみ、提出物)、レポート課題などを用いて点数化し、総合的に評価する。			
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)	
バイオテクノロジーの意義 産業社会とバイオテクノロジー 植物の構造と機能 無菌操作の基本 培地の組成と調製 ラン類の無菌は種	組織培養の目的と技術体系 培養植物体の生育と環境 野菜、草花への応用 果樹、作物等への応用 キクの器官培養 カーネーションの茎頂培養	遺伝子組み換えのしくみ 細胞融合のしくみ ウイルス検定 特産品の培養	

平成27年度 年間授業計画

教科	科目		履修形態
商業	簿記		選択必修
対象	単位数	学年	教科担任
普通科	4	2	森本 恭子
使用教科書			
高校簿記（実教出版）			
使用副教材			
新課程対応 完全段階式標準検定簿記問題集 全商3級（東京法令） 全経簿記3級直前模試（英光社） 完全分類全経簿記3級商業簿記 解説付 2013年度改訂版（英光社） 全経簿記検定試験PAST 3級商業簿記（英光社）			
学習目標			
経営活動に伴う取引を正確に記録・計算・整理するための知識と技術を習得させ、簿記の基本 原理を理解させる。 ビジネスの諸活動を計数的に把握し、生かしていく能力と態度を育てる。 2月に実施される全国経理教育協会主催簿記検定の3級合格を全員が目指す。			
評価の観点とその趣旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	
簿記について関心を持ち、適正な会計処理を行うことを目指して主体的に取り組もうとするとともに、会計処理を行う実践的な態度を身に付けている。	適正な会計処理を行うことを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	簿記に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、適正な会計処理を行うことを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	簿記に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その基本的な仕組みについて理解している。
評価方法			
授業に対する意欲・態度を10%、小テストを30%、定期考査の得点を60%とする。 意欲・態度については、授業中の態度を特に重視し、課題や提出物、出席状況などを加味して評価する。			
1学期の内容 (52時間)	2学期の内容 (52時間)	3学期の内容 (36時間)	
企業の簿記 簿記の要素取引と勘定 仕訳と転記 仕訳帳と総勘定元帳 試算表 決算 現金・預金の記帳 商品売買の記帳	掛け取引の記帳 固定資産の記帳 決算(その1) 手形取引の記帳 有価証券の記帳 その他の債権・債務の記帳 販売費及び一般管理費の記帳 資本金の記帳 決算(その2) 帳簿 仕訳伝票と3伝票制	全経簿記3級受験に向けた 答案練習	

平成27年度 年間授業計画

教科		科目		履修形態
家庭		服飾手芸		選択必修
対象		単位数	学年	教科担任
普通科・併合科		2	2	金澤 弘文
使用教科書				
(なし)				
使用副教材				
なし				
学習目標				
生活と手芸のかかわり、各種手芸の技法などに関する知識と技術を等を学ぶ。 手芸品を創造的に製作し、衣生活・住生活に活用できるようにする。				
評価の観点とその趣旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
意欲的に作品製作に取り組んでいる。	自ら考え、効率よく作業がすすんでいるか。	技能と独自の表現を作品に取り入れているか。	必要な基礎的・基本的な知識を理解できているか。	
評価方法				
①授業への取り組み ②作品・レポート・プリントの提出状況 ③定期考査				
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)		
1 手芸について ・手芸の技法や特徴 2 刺しゅう ・刺しゅうの基礎 ・作品製作(ニードルブック) ・スウェーデン刺しゅう	1 染色 ・あい染め ・作品製作 2 編み物 ・かぎ針編み ・棒針編み	1 手芸の自由製作 ・計画 ・製作 ・製作工程レポート		

平成27年度 年間授業計画

教科		科目		履修形態
家庭		生活産業情報		学校必修
対象		単位数	学年	教科担任
家政科		2	2	金澤 弘文
使用教科書				
生活産業情報（実教出版）				
使用副教材				
なし				
学習目標				
コンピュータの機能・しくみを学び、社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解する。情報処理に関する基礎的技術と知識を学び、ワープロソフト、表計算ソフト等を活用できるようにする。				
評価の観点とその趣旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
コンピュータや情報通信ネットワークの仕組みや働き、処理手順などに関心を持ち、これらを活用しようとしている。	情報システムや提供されるサービスの役割と影響及び活用の在り方について考え、それらを適切に表現している。	コンピュータや情報通信ネットワーク及び情報システムや提供されるサービスを活用するための技能を身に付け、活用することができる。	コンピュータや情報通信ネットワーク及び情報システムや提供されるサービスを活用するための知識を身に付け、それらを活用する際の配慮事項を理解している。	
評価方法				
授業への取り組み状況、並びに提出物により総合的に評価する。				
1学期の内容 (26時間)		2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)
1. 私たちの生活と高度通信社会とのつながり 2. コンピュータの機能 3. コンピュータの基本的な装置と周辺機器 4. パソコンの基本操作		1. ワープロソフトの基本操作と実習 ①ワープロソフトを利用した文書作成 2. ペイント機能の基本操作と実習 3. グラフィックソフトの基本操作と実習 ①学校祭販売品ラベルの作成 4. 表計算ソフトの基本操作と実習 ①表計算ソフトを利用した表・グラフ作成 5. ワープロ検定への取り組み		1. 表計算ソフトの基本操作と実習 ①関数計算 2. 検定について

平成27年度 年間授業計画

教科		科目		履修形態
家庭		ファッション造形		学校必修
対象		単位数	学年	教科担任
家政科		2	2	島田 慶子
使用教科書				
(なし)				
使用副教材				
なし				
学習目標				
<p>裏付きスカートを製作し、ウール地・裏地の取り扱い、体型に合わせた型紙作成、縫製技術を学ぶ。</p> <p>既製服の流通についても学び、シャツブラウスの製作を通し、消費者のニーズに合わせた商品提供についても学ぶ。</p>				
評価の観点とその趣旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用	技能	知識・理解
<p>・衣服の構成・材料・製作について関心をもち、衣生活の充実・向上をめざして意欲的にとりくむとともに、衣服を創造的に製作する態度を身につけている。</p>	<p>・衣服の製作について、自分の考えをまとめ、目的に応じてどのような材料・デザインなどが適当かを判断する力を身につけている。</p> <p>・衣服のデザインや材料の選択に関し、個人の創意・工夫を表現することができる。また製作過程や作品の着用において、必要に応じて個人の創意・工夫をいかし表現することができる。</p>	<p>・衣服の構成に関する実習や製図の実習、材料に関する実験などを通じ必要な技能を取得している。</p> <p>・製作題材を踏まえた技法を用い、計画に従って能率的に衣服の製作を行うことができる技能を身につけている。</p>	<p>・衣服の構成・材料、製作の理論・技術について理解し、衣服を創造的に製作するために必要な知識を身につけている。</p>	
評価方法				
<p>①授業の取り組み状況</p> <p>②定期考査</p> <p>③提出物(作品評価・提出状況)</p>				
1学期の内容 (26時間)		2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)
<p>①被服材料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウール地・裏地の種類と性質 ・手芸洋品店の見学 <p>②タイトスカートの製作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製図 ・布の裁断とるしつけ ・縫製 		<p>①タイトスカートの製作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縫製 ・仕上げ ・製作レポート ・発表 <p>②既製服の生産</p> <p>③オーダーYシャツの製作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Yシャツのデザイン ・型紙製作 		<p>①オーダーYシャツの製作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縫製 ・仕上げ <p>②製作実習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成 ・作品発表

平成27年度 年間授業計画

教科		科目		履修形態
家庭		調理		学校必修
対象		単位数	学年	教科担任
家政科		2	2	島田 慶子
使用教科書				
調理1 (実教出版) 調理2 (実教出版)				
使用副教材				
なし				
学習目標				
様式別調理、大量調理などに関する知識と技術を習得し、健康の維持・増進に寄与する食生活の充実向上を図ると共に、創造的に調理する能力と態度を身につける。				
評価の観点とその趣旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
食の生理的役割とともに社会的役割に関心を持ち、作ることから食べるころまでを総合的にとらえて計画する意欲と実践的な態度を身につけようとする。	自分自身の食生活や、食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ、思考を深める。また、考えをまとめて判断ができる。	調理、テーブルコーディネートなどに関する技術を習得することができる。また、自分を取り巻く現状から見つけた課題を的確に表現することができる。	食事の意義と役割について理解するとともに、豊かな食事を構成する要素として栄養、食品、料理様式と献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を習得することができる。	
評価方法				
①調理の知識と技術が身に付いているか ②授業態度及び出席状況 ③実習レポート及び課題の内容と提出状況 ④実技テスト及び定期考査				
1学期の内容 (26時間)		2学期の内容 (26時間)		3学期の内容 (18時間)
1 調理の目的と意義 2 調理法の分類 3 様式別調理【日本料理】 ・特徴、献立構成、実習、食事作法 4 様式別調理【西洋料理】① ・特徴、献立構成、実習、食事作法 5 様式別調理【中国料理】① ・特徴、献立構成、実習、食事作法 6 食品の調理上の性質		1 集団調理 ・集団調理の管理と運営 ・食事環境とサービス 2 学校祭販売品製造 3 様式別調理【西洋料理】② ・特徴、献立構成、実習、食事作法		1 一汁三菜について ・魚を使った一汁三菜 ・肉を使った一汁三菜 2 弁当製作実習(2回) 3 行事食・供応食

平成27年度 年間授業計画

教科		科目		履修形態
家庭		食文化		選択必修
対象		単位数	学年	教科担任
家政科		2	2	金澤 弘文
使用教科書				
(なし)				
使用副教材				
なし				
学習目標				
日本や世界の食文化と、行事食などについて理解し、食文化の伝承と創造に寄与することができるようになる				
評価の観点とその趣旨				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
日本や世界の食生活の変遷や食文化について関心を持ち、意欲的に学習活動に取り組んでいる。	日本の食文化と世界の食文化の違いについて思考を深め、伝承や創造したりすることができる。	日本の食文化を踏まえて日常食、郷土料理について、工夫を生かした料理を作ることができる。	食生活の多様性について理解し、食文化の伝承と創造に必要な知識を身に付けている。	
評価方法				
①授業への取り組み ②作品・レポート・プリントの提出状況 ③定期考査				
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)		
食文化 1 食文化の成り立ち 2 食生活の変遷 ・食習慣・食生活について ・各時代の特徴について 3 食に関わる企業 ・食材料の流通 ・食文化の交流	1 食に関わる企業 食材料の流通 食文化の交流 食生活の国際化 2 行事食 3 食事の作法	1 食に関わる企業 食材料の流通 食文化の交流 食生活の国際化 2 行事食 3 食事の作法		

平成27年度 年間授業計画			
教科	科目		履修形態
家庭	生活と福祉		学校必修
対象	単位数	学年	教科担任
家政科	2	2	高橋 貢
使用教科書			
(なし)			
使用副教材			
生活と福祉 (実教出版)			
学習目標			
(1)高齢化の現状と課題について理解させる。 (2)生活習慣と健康の関係について考えさせる。 (3)自立生活支援の基本について理解させる。 (4)高齢者介護の在り方について考えさせる。 (5)救護法について理解させる ⇒救護実習「包帯法、他」 (6)介護実習の基本をマスターさせる。 ①車椅子実習 ②ペットメイキング ③トランスファー(移乗)			
評価の観点とその趣旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
(1)食生活と生活習慣病の関係について関心を持たせる。 (2)高齢者の発達段階に応じた看護の在り方を考えさせる。 (3)防災訓練と関連付け、救護訓練の大切さを理解させる。 (4)高齢化社会における介護の重要性について考えさせる。 (5)基礎的な介護・救護技術を習得させる。	(1)健康に悪影響をもたらす食品を特定できる。 (2)生活習慣病の原因を説明できる。 (3)高齢者の発達段階に応じた看護を実践できる。 (4)高齢者に対する介護の重要性を知っている。	(1)健康で、ヘルシーな調理献立がつけられる。 (2)基礎的な救護・介護技術を実施できる。	(1)高齢者の現状と課題を知っている。 (2)生活習慣と健康の関係を理解した。 (3)高齢者の発達段階における介護の基本を知っている。 (4)高齢者介護の問題点を知っている。
評価方法			
①授業態度及び出席状況 ②ノート及び課題等の提出状況 ③小テスト			
1学期の内容 (26時間)	2学期の内容 (26時間)	3学期の内容 (18時間)	
1. 介護・救護実習 (1)包帯法の実施 →麦穂帯、三角巾を活用した救護訓練 (2)介護実習 ①車椅子実習 ②ペットメイキング ③トランスファー(移乗) 2. 人の一生と生活・健康 (1)健康の概念 (2)年齢と健康管理	1.高齢者支援の法律と制度 (1)社会保障制度の仕組み (2)介護保険制度 2. 家庭看護 (1)体温、脈拍の測定 (2)血圧測定 (3)食事の介助 3. 手話の基本練習	1. 課題研究(12時間) 2. 復習	